

震災復興と 集約型都市計画の展望

1. グランドデザインが必要

(被災エリアのみに限定した復興計画が大半をしめる。)

2. 復興計画の基礎：土地利用計画

沖積平野においては、自然立地的土地利用計画論がベース

3. 非常時の都市計画

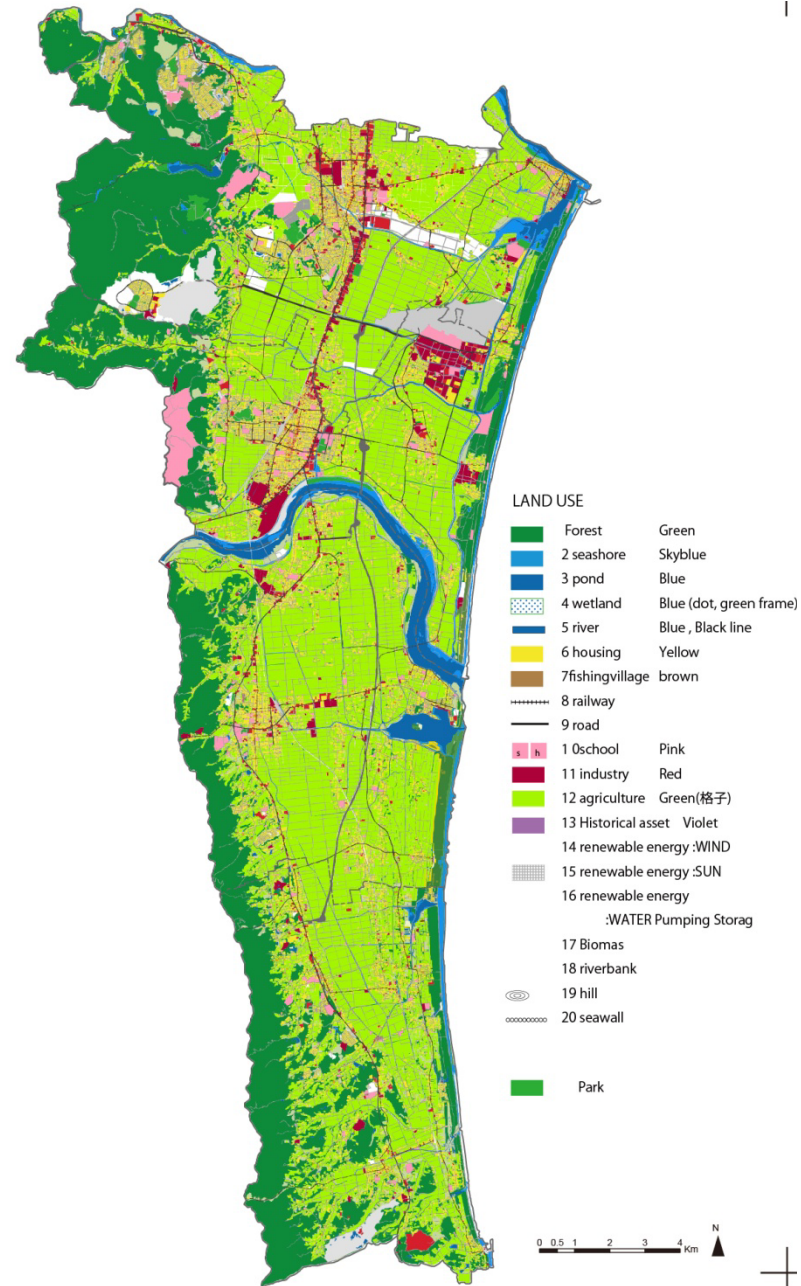
地方分権時代の水平的連携の仕組みづくり
(例：ペアリング支援)

事例

仙南広域地域

震災前

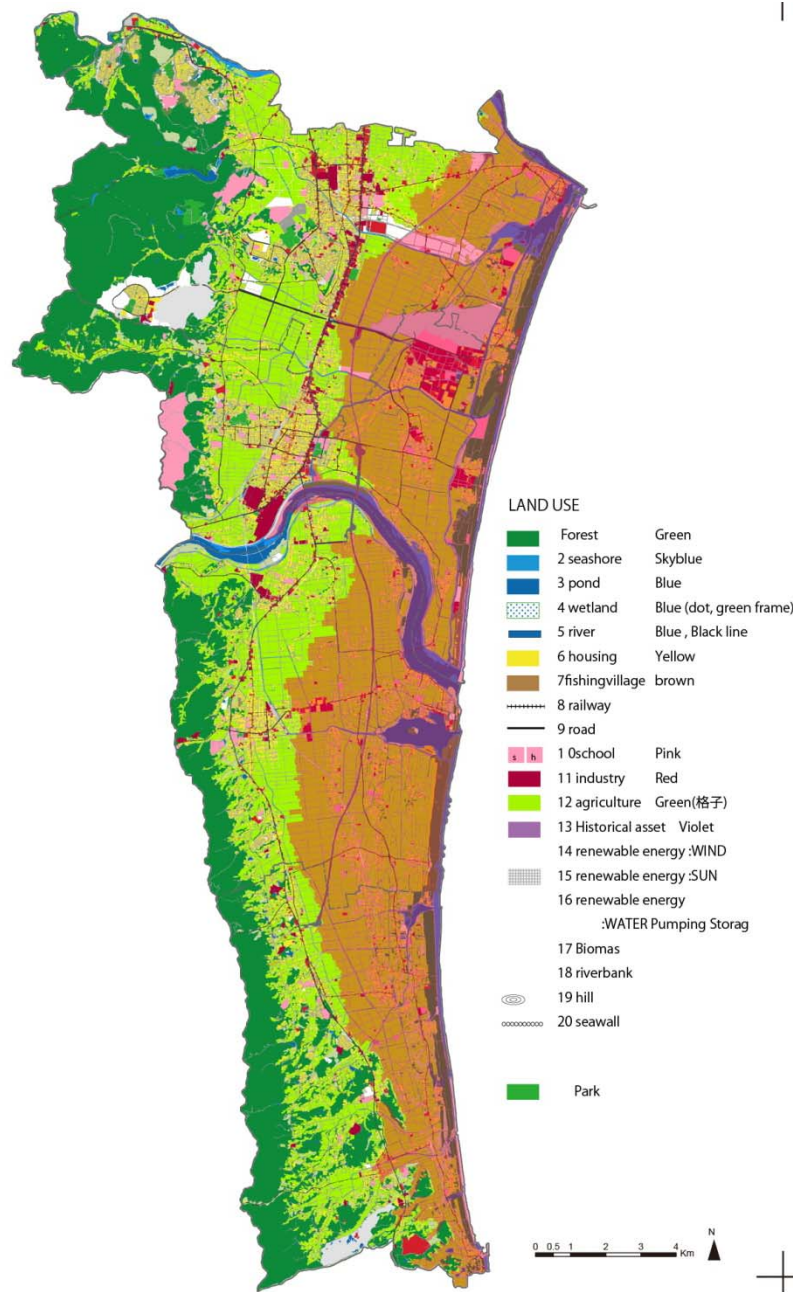
2011年3月11日
以前



仙南広域地域

震災後

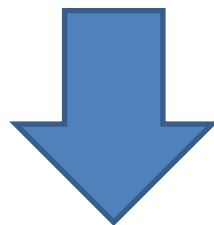
2011年 3月11日
以降





陸に押し寄せて家屋をのみ込む大津波
=11日午後3時55分、名取市

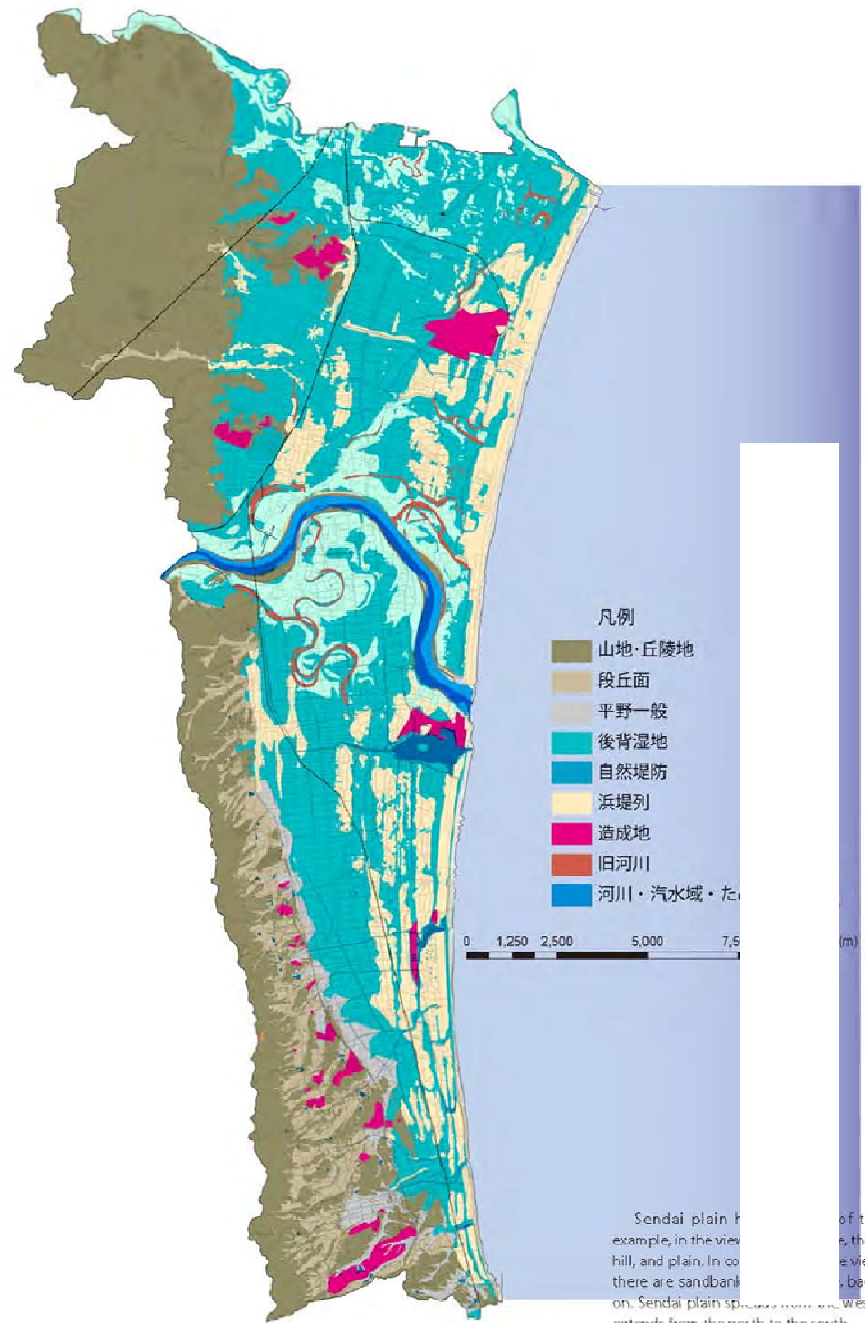
復興の現状



- 復興計画は、市町ごとに多様。
- 被災者の速やかな生活再建が最優先
- 目標
- 戦略（誰が、どのように実行するのか）
- 時間（いつまでに）

はじめての 復興計画

方法論は？



二つの事例

- ①. 岩沼市復興計画
- ②. 亘理町復興計画

微地形を巧みに生かしてきた先人の知恵 自然堤防、浜堤上に集落が立地、 今回の津波被害は、床上、床下浸水 居久根が家屋の破壊を防いだ。

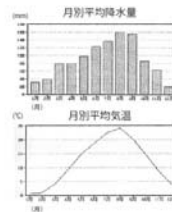
古くて新しい文化的景観 イグネ



気象

気候 海洋性気候・比較的過ごしやすい
 気温 平均気温：11.9度、最寒月平均気温：-3.1～-3.4度
 降水量 平均降水量1,143mm（最多雨月：9月）
 風 冬に北西の季節風が強く、平地では乾燥している
 平均風速：1.8～3.5m/s、最大風速：10.2～24.0m/s（山田市）

資料
 気象庁「気象庁の気象データ」(2011-2011)
 気象庁「気象庁の気象データ」(2011-2011)
 気象庁「気象庁の気象データ」(2011-2011)



岩沼市復興計画の経緯 第一段階(グランドデザイン策定)

1. 2011年3月11日ー4月21日

資料収集、ペアリング支援準備

2. 2011年4月22日 岩沼市ー東京大学GCOE

ペアリング支援開始

3. 2011年4月24日 岩沼市第一回復興会議

目標、理念、戦略

4. 2011年5月29日 岩沼市第二回復興会議

集団移転、農地、内水氾濫、インフラ

5. 2011年 6月3日 避難所廃止。

希望者全員に仮設住宅。(被災地で、最初)

メンタル支援センター設置

6. 2011年 7月3日 岩沼市第三回復興会議 雇用

7. 2011年8月7日 岩沼市第4回復興会議 決定

第二段階 (行政計画、マスタープラン策定)

1. 2011年9月

岩沼市震災復興マスタープラン(7年間の具体的計画)

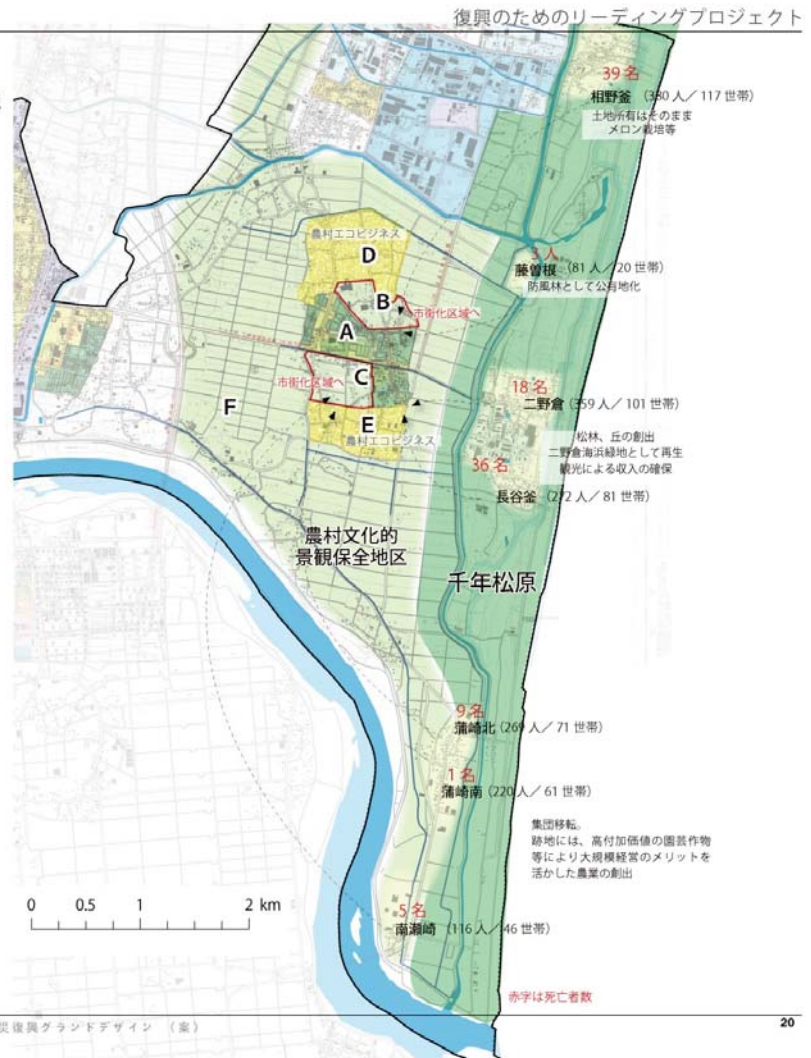
2. 2011年10月 防災集団移転促進事業、公営住宅整備事業

復興の目標 自然共生集約型都市

2、津波からの安全なまちづくり

コミュニティを尊重した集団移転によるエコ・コンパクトシティの実現
(三軒茶屋地区)

- A :
既存の区画整理地区
- B、C :
新たに市街化区域とし、被災地集落の集団移転地とする
- D、E :
農村エコビジネスの展開による雇用の創出
例) ファーム・レストラン、地場産野菜の活用
- F :
農村集落の文化的景観の保全



2. 亘理町

6月22日 復興会議スタート

9月復興基本方針提示

10月1日 ゾーニング案提示

11月23日 最終復興会議(予定)

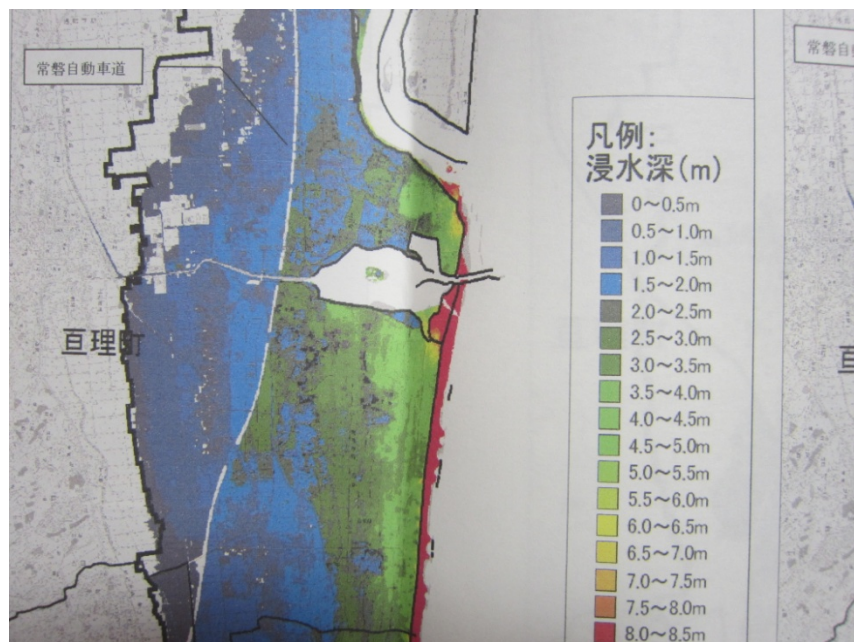


亘理町の現状(2011年 10月1日)

震災時津波高

シミュレーション条件

出所: 第4回亘理町震災復興会議(2011年10月1日資料)



ゾーニング案(2011年 10月1日案)



広域計画の必要性 千年希望の杜 ナショナルパーク

1. ゆり上、仙台空港、鳥の海などを産業・交流の拠点とする。
2. 伊達400年の資産である貞山堀を再生し、松嶋、石巻と繋ぐ。
3. 環太平洋の渡り鳥のルート。生物多様性の宝庫



3. 非常時の都市計画

多様な支援の必要性

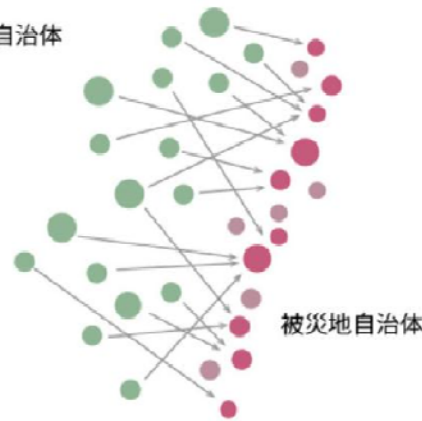
なかでも、自治体間の水平的連携

復興を持続的に支援する仕組みが必要
顔のみえる支援の一つとしての
ペアリング支援（対口支援）
（3年間、自治体、大学、NPO）

震災直後

(2011/03/11~)

支援自治体

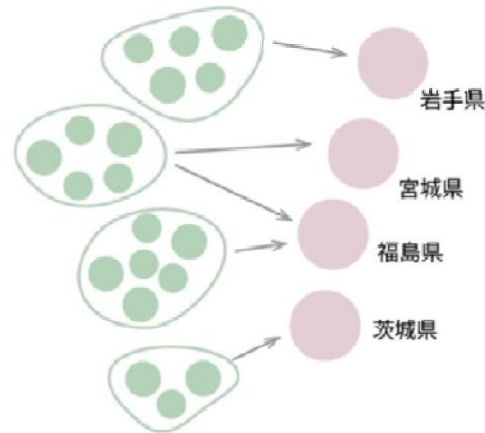


- ・ 人命救助、上下水道、消防など、組織的に迅速に活動。
- ・ その他の支援は、ほとんどがランダムに支援
- ・ 明確な対象で動いたのは、姉妹友好都市・災害時連携都市などの関係があったところ

一週間後

全国知事会によるグループ化

県をグループ化



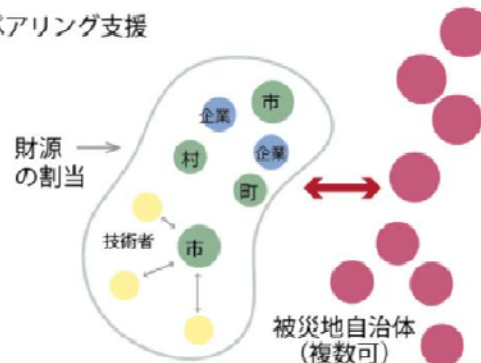
- ・ 大きな力となる。
- ・ 直後の支援と割りあてられた対象は、必ずしも合致していない場合もあった。
- ・ 全国市長会による都市ごとの支援の開始。
- ・ 多くのボランティアが待ちの状態

今後

1ヶ月

三年

ペアリング支援



- ・ 復興まちづくりが課題
- ・ 長いプロセス
- ・ 行政、産業、金融、福祉、教育など被災地の復興にかかわる多様な主体の参画が必要。

四川汶川大地震 ペアリング支援

2008年5月12日発生

延長 500km

死者: 8万5千人

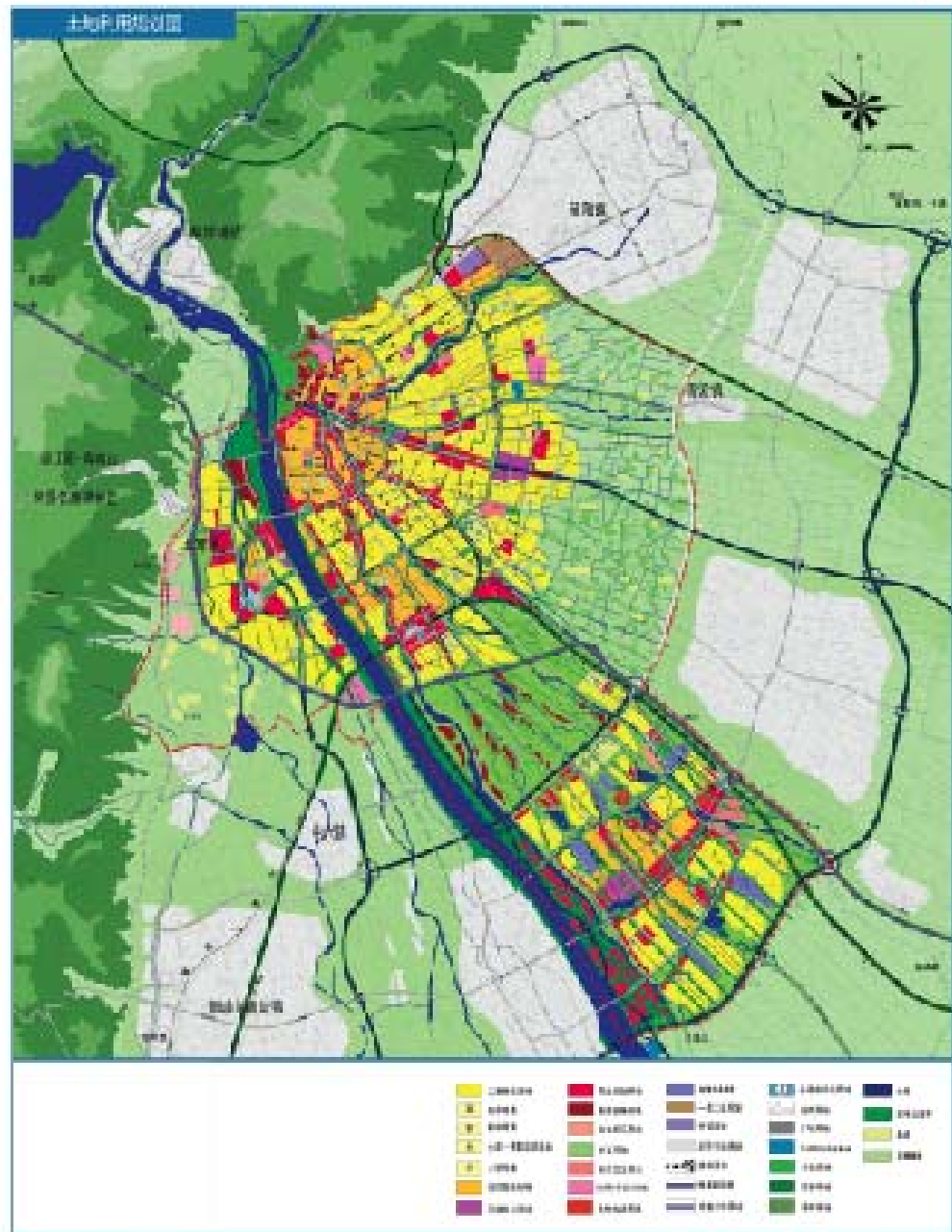
地震発生、3年間でほぼ復興は完了。

最大の要因: ペアリング支援

都江堰復興計画 (2008年12月)

森、川、用水路網を
生かした
エコ・コンパクトシティ

農村の近代化の
実現



まとめ

- 課題1：持続可能な地球環境への貢献
「流域圏プランニング」の可能性
これまでの都市計画との相違：階層性を有する計画論
水循環、生物多様性、エコロジカル・プランニングの基盤を提供。
農村地域においては小流域と伝統的生活圏の一致が多い。
- 課題2：担い手と仕組み
「市民力」の活用と仕組みづくり
地域、課題に応じて多様性にとむ。
- 課題3： 非常時の都市計画（地方分権の時代）
自治体間の水平的連携の仕組みを、
平常時から、作りだす。